

北埼玉地域の農業

水と緑、みのり豊かな水田地帯

～北埼玉農業の発展を目指して～



埼玉県のマスコット コバトン

地域農業の概要

北埼玉地域は、埼玉県の北東部、都心から50～60km圏に位置し、北側は利根川と渡良瀬川を境に群馬県、栃木県、茨城県の3県に接する標高16m前後の平坦地です。

肥沃な土壌と豊かな水に恵まれている北埼玉地域は、水稻の作付面積が7,390ha（令和5年産）と県内随一の穀倉地帯であり、「コシヒカリ」や埼玉県が育成した「彩のかがやき」の生産地として知られています。

また、麦や野菜（施設栽培のきゅうり、トマト、いちご、なす）、果樹（梨、いちじく）など多彩な農産物が生産されています。

項目	単位	北埼玉地域	埼玉県	割合 (%)
農家戸数	戸	5,100	46,463	11.0
耕地面積	ha	11,920	73,000	16.3
田	ha	10,260	40,700	25.2
畑	ha	1,659	32,200	5.2
農業産出額	億円	212	1,545	13.7
上位品目				
米	億円	70	266	26.2
野菜	億円	23	745	3.1
畜産	億円	21	262	8.0
麦類	億円	4	12	31.0

※農家戸数は農林水産省「2020年農林業センサス」

※耕地面積は農林水産省令和5年7月「耕地及び作付面積統計」

※農業産出額は令和4年農林水産省調べ（推定値）

※ラウンドの関係から数値が一致しない場合がある。



北埼玉の多彩な農業生産

主 穀

水稻の作付面積は7,390ha（令和5年産）と県内の26%を占め、特に加須市は4,230ha（令和5年産）と県内一の産地です。夏期の高温対策として、暑さに強い「彩のきずな」「えみほころ」の導入及び高温時の管理技術の向上を進めています。



麦は小麦、ビール麦（二条大麦）、六条大麦、はだか麦の合計で1,521ha（令和5年産）が栽培されています。品種は、小麦は「あやひかり」、ビール麦は「ニューサチホゴールデン」で高品質生産に取り組んでいます。

大豆は259ha（令和5年産）作付けされ、主な品種は「里のほほえみ」です。その他、甘みが強く香りの高い「行田在来青大豆」については「さきたまめ」という名称で、枝豆としても流通しています。



水稻、麦、大豆の種子生産が行われています。特に「彩のかがやき」は県内全ての種子が管内で生産され、県産米の安定供給に役立っています。



土地利用型農業を中心に、RTK基地局による自動操舵システムや、ロボット田植機、ほ場管理システム、ドローン等のスマート農業の導入が進んでいます。



野 菜

きゅうり・なすは、主に加須市・羽生市で栽培されています。北埼玉地域では一元共販に取り組み、市場から品質の良い産地として高い評価を受けています。

あわせて新鮮さをアピールするため、きゅうりは花をつけたまま出荷する「花付ききゅうり」にも取り組んでいます。なお羽生市には、県内最初の選果場が設置されています。



トマトは加須市を中心に促成栽培が行われています。特に北川辺とまと研究会は共同選果施設を整備し、食味や鮮度にこだわった栽培に取り組んでいます。



いちごは品種「やよいひめ」「紅ほっぺ」の他、急激に増加している県育成品種「べにたま」「あまりん」が加須市を中心に栽培されています。また、一部高設栽培施設を導入した観光摘み取りも行われています。



各市にあるJAの農産物直売所、道の駅等には、多品目の野菜が直売用に出荷されています。また、地産地消と食育を兼ねて、地元学校給食へも種々の野菜が提供されています。

果 樹

梨の栽培が盛んで、共同選果施設を活用した市場出荷に加え、直売など地場流通にも積極的に取り組んでいます。幸水、豊水の主力品種に加え、埼玉県が育成した「彩玉」も栽培されています。また、いちじくの栽培も盛んで県内屈指の産地です。



加須市産の「なし」と「いちじく」

花 き

施設栽培を中心に、鉢物（洋ラン、シクラメン等）、苗物（ペチュニア、パンジー等）、観葉植物（ポトス等）や切り花（バラ、カーネーション等）が生産され、市場から高い評価を受けています。



鉢物(シクラメン)

洋ラン(胡蝶蘭)

畜 産

養豚は管内を代表する畜産で大規模経営が見られます。あわせて、豚肉のブランド化に取り組んでいます。また、近年では水田での子実とうもろこし栽培が行われ、地域内養豚農家と耕畜連係の取組が進められています。



6次産業化

農業者による農産物の生産・加工・販売活動が活発に行われ、まんじゅう・ジャム・クッキーなどの商品化が進み、農産物直売所などで販売されています。

特に、北埼玉地域を代表する伝承料理「いがまんじゅう」をはじめ、地域の特産である「いちじく」の加工品や「ホンモロコ」の煮付けなどのほか、近年は「ドライホンモロコ」や「いちごチップ」など素材を乾燥させて作った新商品が誕生しています。



いちじくジャム

ドライホンモロコ いちごチップ

「ホンモロコ」の甘露煮

農政の動き（農地の集積・集約の取組とS-GAP推進）

農地中間管理事業

管内では、担い手への農地の集積・集約化の取組を積極的に進めています。関係機関が強力に連携して事業推進を行い、県全体の実施（転貸）面積の約4割（4,675ha：令和5年度末）を占める県内一の先進地です。



再配分会議で農地の集積・集約を検討

S-GAP推進事業

食の安全・安心確保や環境などに配慮した持続可能な農業経営の取組を進めるため、埼玉県独自のGAP（略称「S-GAP」）の普及を推進しています。

S-GAPの実践農場の拡大により、県産農産物の一層の安全性と信頼性の向上を目指しています。



S-GAPのぼり旗

整理された農薬庫



北埼玉の農村整備

ほ場整備事業

未整備や小区画のほ場の大区画化に加え、用排水路や農道を整備することで、生産性の高いほ場を整備します。
 令和5年度は、鴻巣・行田地区（行田市、鴻巣市）、大房地区、村君地区（羽生市）で実施しました。
 大区画化等により農作業が効率化できることから、担い手農家への着実な農地利用集積が期待されます。



水辺周辺活用事業（農業用水）

埼玉県では、県民誰もが川に愛着を持ち、ふるさとを実感できる「川の国埼玉」を実現するため「川の再生」に取り組んでいます。
 令和3年度からは「水辺周辺活用事業（農業用水）」として、会の川地区（加須市）、ヘルシー・ふれあい地区（行田市、加須市、鴻巣市）において、水路整備や歩道等の整備を実施しています。



整備工事が完了した「会の川」



賑わいを取り戻した灯籠流し

多面的機能支払交付金

自然環境の保全や良好な景観の形成など、多面的機能を有する農地や農業用水路などは県民共有の財産です。しかし、これらの維持・保全を農業者だけで担うことは難しくなってきました。
 当センターでは水路の泥上げや草刈り等の共同活動が交付対象となる「農地維持支払」や、施設の長寿命化や地域の景観形成、地域住民との交流などの普及・啓発活動が交付対象となる「資源向上支払」等の資金援助により、地域の活動を支援しています。
 新たに地域活動を取り組みたい、地域の活動を広げたい等ありましたら、農村整備部整備支援・管理担当までご相談ください。



地域住民による水路の草刈



子供会と芋ほり体験

加須農林振興センターの組織

部 名	担 当 名	担 当 事 務
管 理 部	総務担当	庶務、経理
	地域支援担当	農産物の生産振興、農地中間管理事業、遊休農地対策、人・農地プラン、地産地消・食育の推進、農業災害、農産物の安全・安心、GAP、農業制度資金 等
	管理・農地担当	農地法・農業振興地域制度、食品表示 等
農 業 支 援 部	新規就農・法人化担当	新規就農の支援、農業の法人化・6次産業化の支援
	技術普及担当	東部地域
西部地域		行田市、羽生市における農産物の栽培・加工技術の支援、農業経営の改善支援 等
農 村 整 備 部	整備支援・管理担当	農業農村整備事業の推進、土地改良施設管理 等
	県営事業担当	県営ほ場整備・かんがい排水事業等の実施
	工事管理・事業調整担当	農業農村整備事業の調整、進行管理



住所 〒347-0054 加須市不動岡564-1 電話 0480-62-4771
 メールアドレス g624771@pref.saitama.lg.jp
 ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0907/index.html>

交通機関
 加須駅から朝日バス
 加須車庫行き加須車庫下車
 徒歩 700m
 加須駅から 2.5km